

中小企業の 景気動向調査



千葉信用金庫

No.68(令和2年10月～12月)

NEWS report

■当期の業況は、製造業・不動産業を除いて改善したが、依然厳しい業況が続いている

新型コロナウイルスの影響から著しく悪化した前々期の業況から比較すると、GoToトラベル等のキャンペーンも後押しし、当期もゆるやかな回復が見られました。

■来期の業況は、製造業を除く業種で当期に比べ厳しい業況が予測される

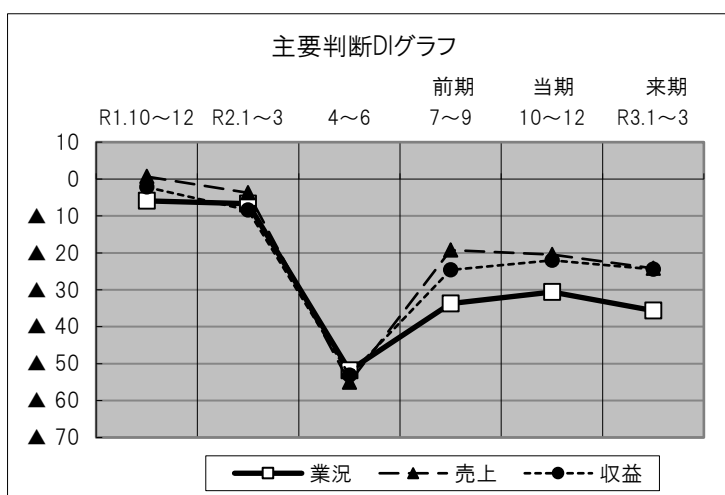
一方、新型コロナウイルスの感染者数が急増し、消費者の外出自粛・自治体の営業時間短縮要請等によるビジネスチャンスの喪失が危惧されます。

【全業種】

全業種総合の当期の業況判断DIは▲30.6と、前期から3.1ポイント小幅に改善しました。しかし、前年同期のDIと比較すると24.7ポイントの大幅な悪化となっています。

来期は、販売価格の下落は強まり、資金繰りは厳しさが増すものと予想されています。売上高・収益ともに減少傾向は強まり、業況判断DIは当期と比べて5.2ポイント悪化すると予想されています。

DI項目	前年同期 R1.10 ～R1.12	前期 R2.7 ～R2.9	当期 R2.10 ～R2.12	来期 (予測) R3.1 ～R3.3
業況	▲ 5.9	▲ 33.7	▲ 30.6	▲ 35.8
売上高	0.7	▲ 19.2	▲ 20.5	▲ 24.4
収益	▲ 2.2	▲ 24.6	▲ 22.0	▲ 24.6
販売価格	6.4	▲ 4.8	▲ 3.0	▲ 7.1
仕入価格	23.6	7.6	8.2	6.0
在庫	▲ 1.5	▲ 1.5	▲ 5.4	▲ 6.0
資金繰り	▲ 9.2	▲ 11.4	▲ 8.4	▲ 10.8



【調査概要】

本調査は、当金庫お取引先のご協力を得て調査したものです。当金庫営業地域の経済動向把握と共に、地域の中

小企業の皆様に経営の参考にしていただくためにまとめたものです。

■調査対象時期 当期(令和2年10月～12月)、来期(今後3ヶ月:令和3年1月～3月の見通し)

■調査企業先数 当金庫お取引先492社 有効回答数464社

(内訳:製造業75社、卸売業44社、小売業102社、サービス業84社、建設業96社、不動産業63社)

■DIの説明

DIとは、「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽」と答えた企業割合から「悪い」「減少」「下降」「不足」「苦しい」と答えた企業割合を差し引いた数値のことです。「良い」には『やや良い』を含み、「悪い」には『やや悪い』を含みます。「増加」「減少」等、他の項目も同様です。

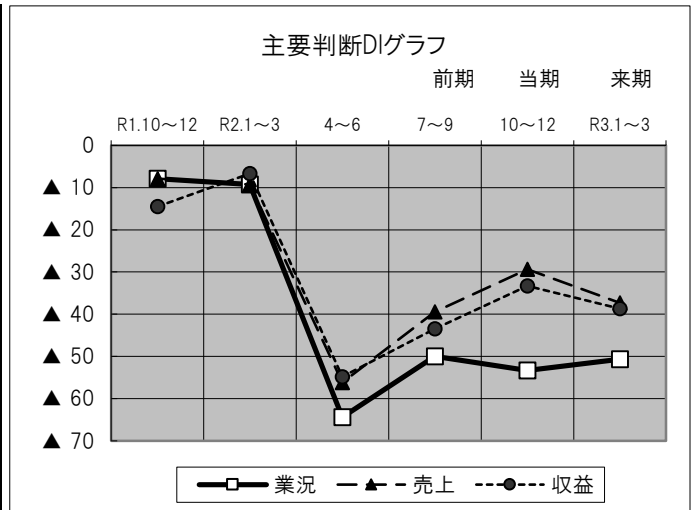
これら数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさの程度によって、景気変化の方向を時系列的な推移の中で分析することを目的としています。

【製造業】～今期は悪化、来期も厳しい状況が続くと予測～

製造業の当期の業況判断DIは▲53.3と、前期から3.3ポイント悪化しました。原材料価格の上昇が強まるなか、売上高・収益は減少傾向が弱まり、資金繰りは苦しさが和らいだものの、業況判断DIは前年同期から45.4ポイントの大幅な悪化となりました。

来期は、業況判断DIが当期と比べ2.6ポイント小幅に改善するものの、厳しい状況が続くと予想されています。

DI項目	前年同期 R1.10 ～R1.12	前期 R2.7 ～R2.9	当期 R2.10 ～R2.12	来期(予測) R3.1 ～R3.3
業況	▲ 7.9	▲ 50.0	▲ 53.3	▲ 50.7
売上高	▲ 7.9	▲ 39.5	▲ 29.3	▲ 37.3
受注残	▲ 9.2	▲ 36.8	▲ 33.3	▲ 37.3
収益	▲ 14.5	▲ 43.4	▲ 33.3	▲ 38.7
販売価格	▲ 1.3	▲ 13.2	▲ 5.3	▲ 5.3
原材料価格	19.7	6.6	9.3	9.3
原材料在庫	2.6	5.3	▲ 1.3	1.3
資金繰り	▲ 5.3	▲ 15.8	▲ 14.7	▲ 18.7
設備状況	▲ 14.5	▲ 9.2	▲ 12.0	▲ 13.3

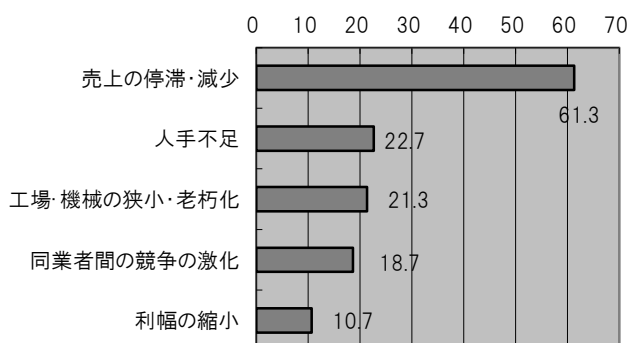


■調査員コメント

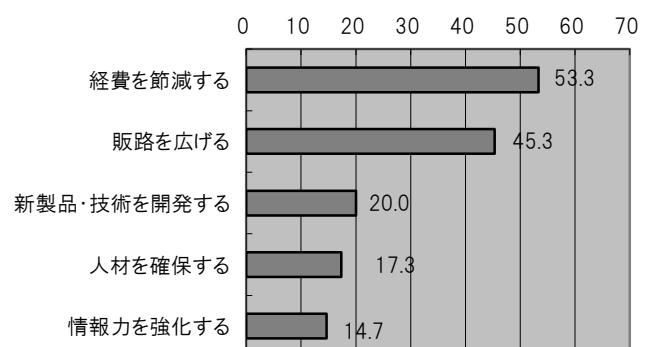
- ・新型コロナの影響により海外からの教育実習生の受入ができない。(豚肉加工)
- ・同業者間の競争及び販売先・納入先からの値下げ要請、更に新型コロナによる営業自粛の流れから売上が減少している。(金属製品)
- ・海外からの安価な輸入製品との競争が激しく売上減少している。(婦人靴用ヒール)
- ・売上の減少が続き、今後業況改善とならなければ給与の減額も検討する。(菓子)
- ・新型コロナの影響により一般家庭用の消毒等の受注が増加しているものの、アルコール消毒の原材料は入らない状況が続いている。(シャンプー・ボディソープ)

■製造業における経営上の問題点と重点経営施策について (複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位5項目(%)】

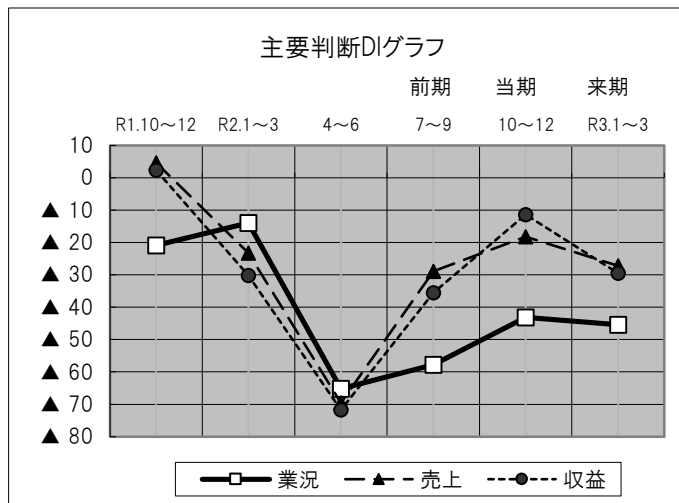


【卸売業】～今期は改善したが、来期も厳しい状況が続くと予測～

卸売業の当期の業況判断DIは▲43.2で、前期から14.6ポイント改善しました。販売価格は上昇に転じ、売上高・収益ともに減少傾向が弱まりました。資金繰りは苦しさも和らぎましたが、業況は厳しい状況が続いており、前年同期からは22.3ポイントの大幅な悪化となりました。

来期は、在庫状況が過剰傾向に転じ、業況判断DIも2.3ポイント悪化、資金繰りも厳しい状況が続くと予測されています。

DI項目	前年同期 R1.10 ～R1.12	前期 R2.7 ～R2.9	当期 R2.10 ～R2.12	来期(予測) R3.1 ～R3.3
業況	▲ 20.9	▲ 57.8	▲ 43.2	▲ 45.5
売上高	4.7	▲ 28.9	▲ 18.2	▲ 27.3
収益	2.3	▲ 35.6	▲ 11.4	▲ 29.5
販売価格	11.6	▲ 8.9	6.8	0.0
仕入価格	27.9	24.4	15.9	4.5
在庫	4.7	6.7	▲ 2.3	2.3
資金繰り	▲ 2.3	▲ 13.3	▲ 6.8	▲ 11.4
設備状況	▲ 16.3	▲ 8.9	▲ 6.8	▲ 9.1

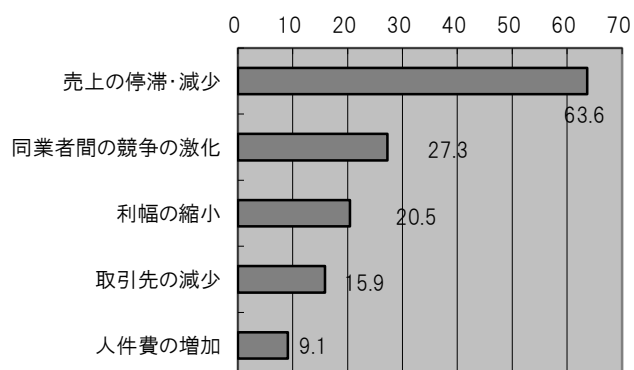


■調査員コメント

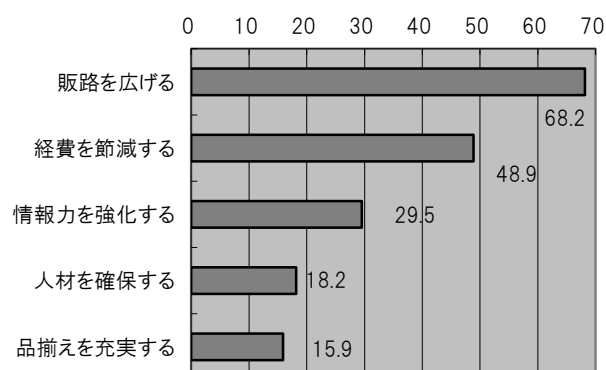
- ・緊急事態宣言解除後、徐々に戸建現場工事回復。今期決算は売上例年並みに回復する見込み。(アルミサッシ)
- ・新型コロナの影響の中で、マスクの販売が増加し、売上高増加安定した状況であり、今後も順調に推移するものと思われる。(美容関係)
- ・新型コロナの影響はあまり感じられず、年末のお歳暮など繁忙期は例年通りであり、業況は堅調に推移してる。(食料品)
- ・新型コロナで外出が減少して配達でのお客が増加し売上も堅調に推移。(有機農産物)

■卸売業における経営上の問題点と重点経営施策について (複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位5項目(%)】

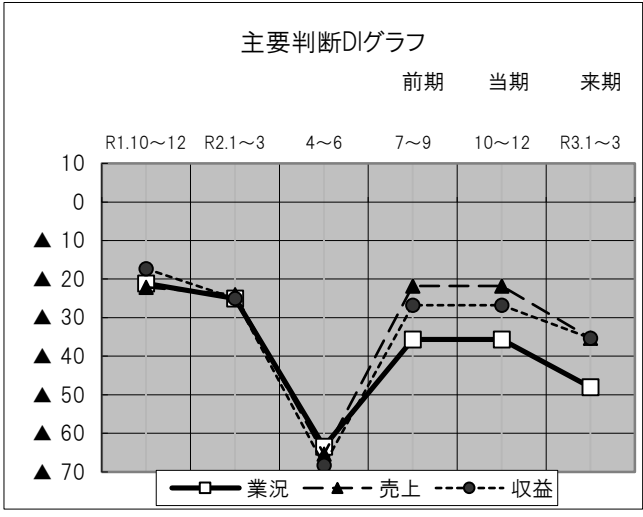


【小売業】～今期は悪化、来期は当期に比べ大幅な悪化を予測～

小売業の当期の業況判断DIは▲36.3で、前期から0.7ポイント悪化しました。売上高・収益ともに減少傾向が強まりました。販売価格の下降が強まり、業況判断DIは前年同期から15.1ポイントの大幅な悪化となりました。

来期は、売上高・収益とも厳しい状況が続き、業況判断DIは11.7ポイント悪化すると予測されています。

DI項目	前年同期 R1.10 ～R1.12	前期 R2.7 ～R2.9	当期 R2.10 ～R2.12	来期(予測) R3.1 ～R3.3
業況	▲ 21.2	▲ 35.6	▲ 36.3	▲ 48.0
売上高	▲ 22.1	▲ 21.8	▲ 39.2	▲ 35.3
収益	▲ 17.3	▲ 26.7	▲ 38.2	▲ 35.3
販売価格	12.5	▲ 2.0	▲ 6.9	▲ 7.8
仕入価格	19.2	7.9	6.9	4.9
在庫	4.8	2.0	▲ 1.0	▲ 2.9
資金繰り	▲ 15.4	▲ 16.8	▲ 17.7	▲ 15.7
設備状況	▲ 12.5	▲ 10.9	▲ 19.6	▲ 18.6



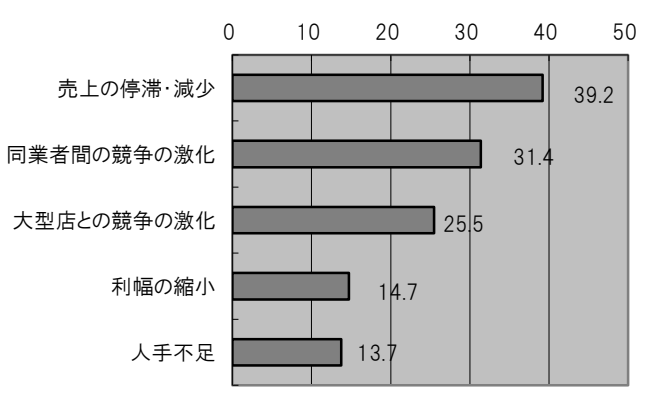
■調査員コメント

- ・体操着取扱店であり、今般の新型コロナにより運動会等のイベント中止又は延期の為売上減少した。(洋品店)
- ・新型コロナで外出を控えていることから、ガソリン販売が減少。(石油・LPガス製品販売)
- ・新型コロナの影響により、売上減少傾向。テレワークの増加により、売上の大きかったサラリーマンの昼食の売上が無くなり減少が続くと見られる。(飲食料品小売)
- ・商店街の利用客は減少傾向に変化なく、業況改善の見通しはたっていない。(鮮魚類小売)
- ・新型コロナ拡大で自宅で食事をする人が増加し、買い物客が増加。(生鮮食品)

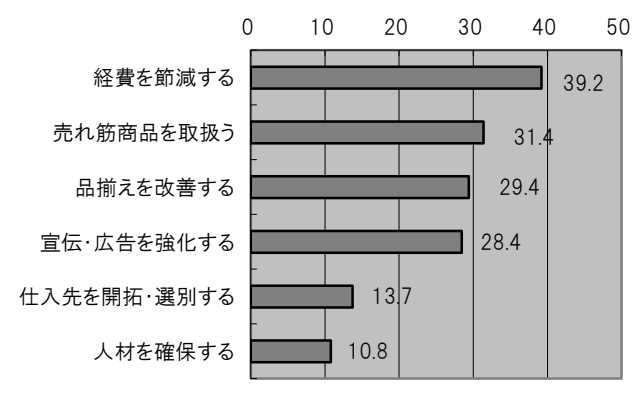
■小売業における経営上の問題点と重点経営施策について

(複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位6項目(%)】

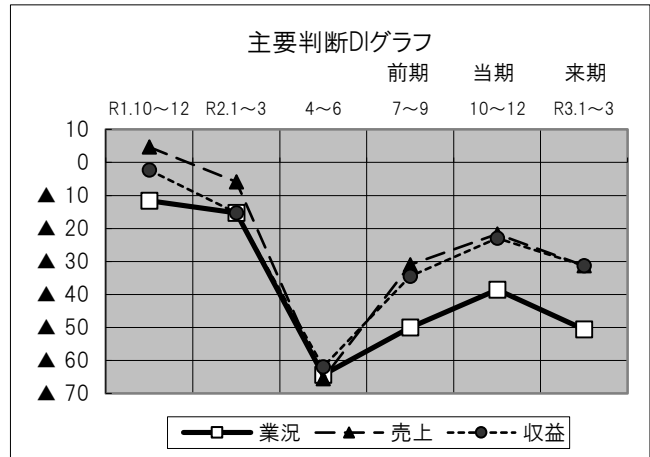


【サービス業】～今期は改善、来期は当期に比べ悪化を予測～

サービス業の当期の業況判断DIは▲39.3で、前期から10.7ポイント改善しました。料金価格は下降が弱まり、売上高・収益も減少傾向が弱まりました。業況判断DIは前年同期から27.7ポイントの大幅な悪化となりました。

来期は、業況判断DIが当期と比べて11.9ポイント悪化、資金繰りが苦しく厳しい状況が続くと予測されています。

DI項目	前年同期 R1.10 ～R1.12	前期 R2.7 ～R2.9	当期 R2.10 ～R2.12	来期(予測) R3.1 ～R3.3
業況	▲ 11.6	▲ 50.0	▲ 39.3	▲ 51.2
売上高	4.7	▲ 31.0	▲ 22.6	▲ 32.1
収益	▲ 2.3	▲ 34.5	▲ 23.8	▲ 32.1
料金価格	2.3	▲ 3.6	▲ 1.2	▲ 3.6
材料価格	33.7	1.2	2.4	1.2
資金繰り	▲ 15.1	▲ 20.2	▲ 11.9	▲ 14.3
設備状況	▲ 17.4	▲ 7.1	▲ 2.4	▲ 2.4

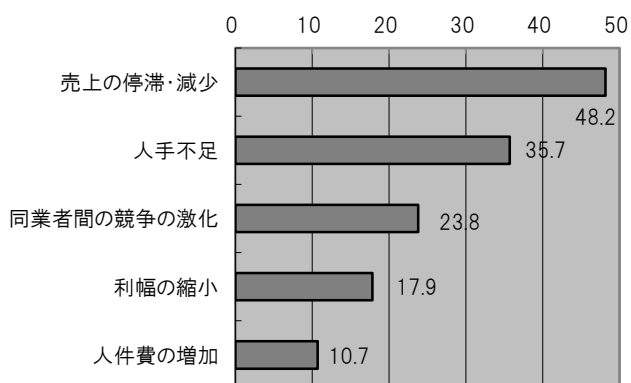


■調査員コメント

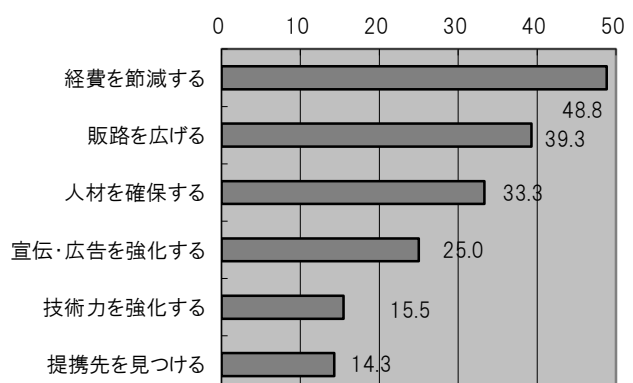
- ・依然として来店客数が減り、昔のように長居する客が減ってきた。（パチンコ営業）
- ・メイン顧客の高齢者の外出自粛により一人あたりの来店回数が減っている。（理容業）
- ・現状はGOTOキャンペーン等で予約が入り売上も増加しているが、年明けは不透明で見通しがたたない。（旅館業）
- ・夏から秋にかけては、新型コロナで増加した工事により売上増加。冬以降の再流行を懸念している。（消防設備保守点検）
- ・夏場から少しずつ増加してきた売上も停滞し、第3波を考慮すると非常に厳しい。（美容業）

■サービス業における経営上の問題点と重点経営施策について （複数回答）

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位6項目(%)】

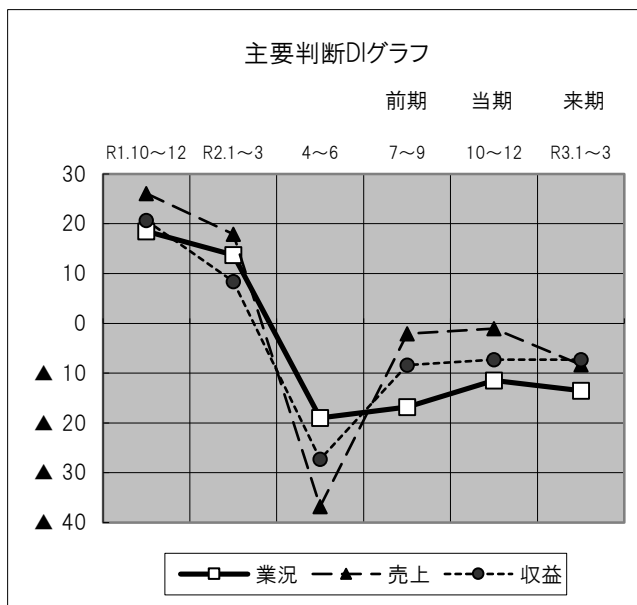


【建設業】～今期は改善、来期は当期に比べ悪化を予測～

建設業の当期の業況判断DIは▲11.5で、前期から5.3ポイントの改善となりました。請負価格は下降に転じました。売上高・収益は減少傾向が弱まり、資金繰りも苦しさは和らぎました。業況判断DIは前年同期から30.0ポイントの大幅な悪化となりました。

来期は収益が横ばい、その後は悪化、業況判断DIは当期と比べて2.0ポイント悪化すると予測されています。

DI項目	前年同期 R1.10 ～R1.12	前期 R2.7 ～R2.9	当期 R2.10 ～R2.12	来期(予測) R3.1 ～R3.3
業況	18.5	▲ 16.8	▲ 11.5	▲ 13.5
売上高	26.1	▲ 2.1	▲ 1.0	▲ 8.3
受注残	25.0	▲ 5.3	▲ 6.3	▲ 14.6
施工高	15.2	▲ 2.1	▲ 1.0	▲ 11.5
収益	20.7	▲ 8.4	▲ 7.3	▲ 7.3
請負価格	13.0	1.1	▲ 2.1	▲ 10.4
材料価格	27.2	11.6	10.4	9.4
在庫	▲ 2.2	▲ 3.2	▲ 1.0	▲ 2.1
資金繰り	▲ 5.4	▲ 4.2	▲ 1.0	▲ 3.1
設備状況	▲ 6.5	▲ 2.1	▲ 3.1	▲ 2.1

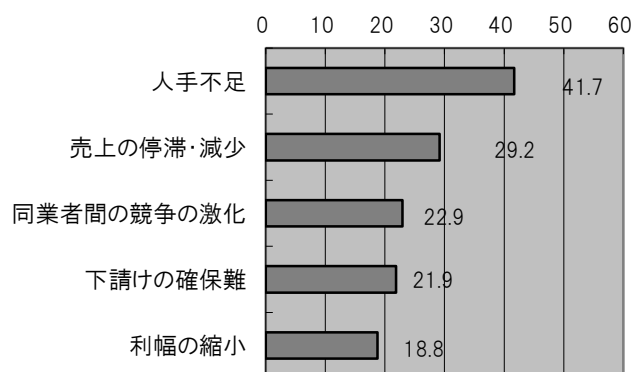


■調査員コメント

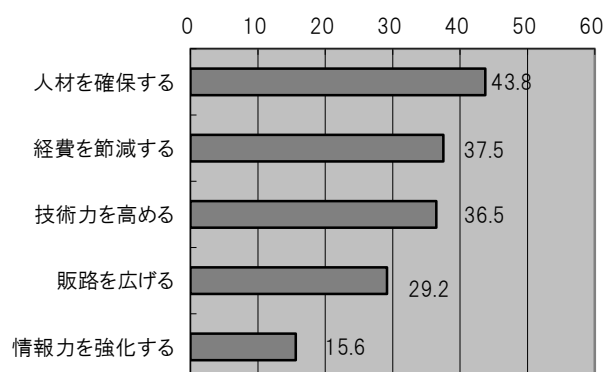
- ・新型コロナの影響も殆どなく、住宅の契約状況も前年並に推移している。(住宅建設販売)
- ・人手不足となっており下請の確保も難しい状況。(土木建設)
- ・新型コロナの影響から7月から9月は受注減少し、売上入金も9月から11月は大幅に減少。業況回復傾向にある。(管工事)
- ・公共工事(道路)の影響で売上増加中。(建設業)
- ・公共工事を主体に受注し業況安定。(土木建設業)

■建設業における経営上の問題点と重点経営施策について (複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位5項目(%)】

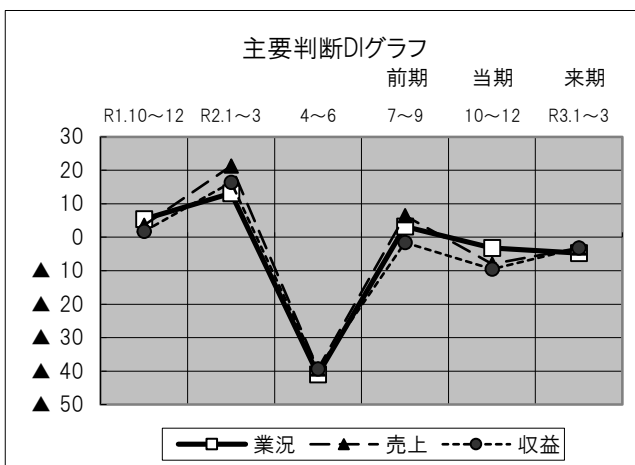


【不動産業】～今期は悪化、来期もさらに悪化すると予測～

不動産業の当期の業況判断DIは▲3.2で、前期から6.4ポイントに悪化しました。仕入価格は増加に転じたものの、販売価格の減少傾向は弱まりました。資金繰りは和らぎましたが、業況判断DIは前年同期から比較すると8.6ポイントの悪化となりました。

来期は、在庫の不足状況が強まり、販売価格は当期に比べ下降が強まると予測されています。売上高・収益は減少傾向が弱まるものの、業況判断DIは1.6ポイント悪化すると予測されています。

DI項目	前年同期 R1.10 ～R1.12	前期 R2.7 ～R2.9	当期 R2.10 ～R2.12	来期(予測) R3.1 ～R3.3
業況	5.4	3.2	▲ 3.2	▲ 4.8
売上高	3.6	6.5	▲ 7.9	▲ 3.2
収益	1.8	▲ 1.6	▲ 9.5	▲ 3.2
販売価格	▲ 3.6	▲ 6.5	▲ 4.8	▲ 12.7
仕入価格	12.5	▲ 1.6	7.9	6.3
在庫	▲ 25.0	▲ 21.0	▲ 33.3	▲ 39.7
資金繰り	▲ 5.4	4.8	6.3	0.0

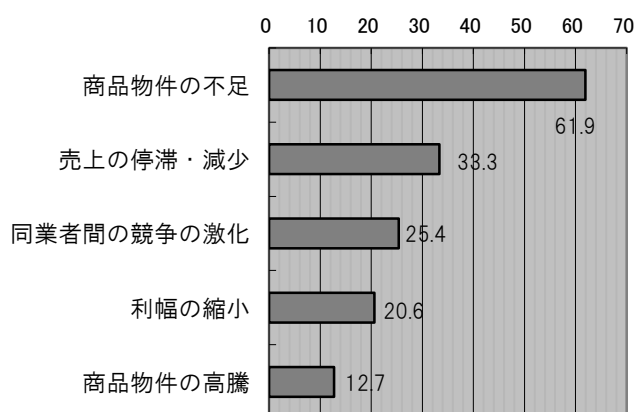


■調査員コメント

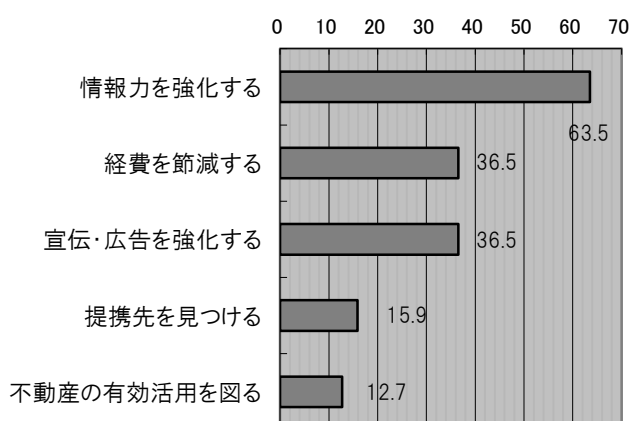
- ・新型コロナの影響で売上が減少。感染再拡大によりキャンセル等影響は続いている。(不動産売買)
- ・新型コロナの影響で不動産の動きが鈍っていたが、次第に動き始めている。(不動産仲買業)
- ・不動産管理により収入は安定。(不動産仲買・管理)
- ・今期は物件販売好調、商品物件は引き続き不足しており、人気エリアを中心に仕入していく方針。(土地分業及び建築業)
- ・新型コロナの影響も殆どなく、積極的に商品物件仕入し販売状況も良好である。(土地建物売買業)

■不動産業における経営上の問題点と重点経営施策について (複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位5項目(%)】

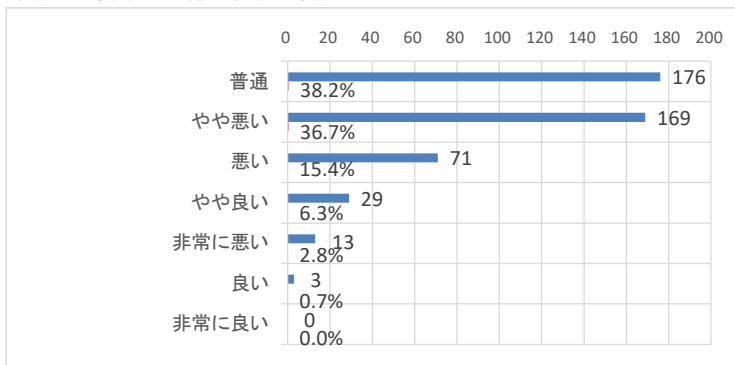


特別調査

～「2021年(令和3年)の経営見通し」～

1. 2021年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。

(有効回答数461件 単数回答)



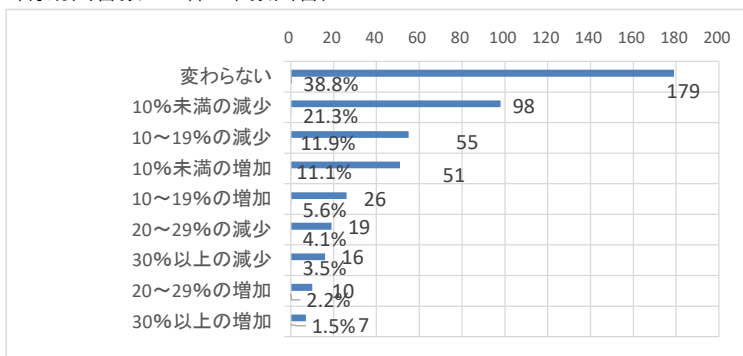
選択件数が最も多い回答は「普通」で176件(38.2%)となりました。

一方で、「やや悪い」「悪い」「非常に悪い」というマイナスの回答を合計すると253件で、全体の54.9%を占めました。

新型コロナの感染再拡大が見られる中、長期的な経済活動の停滞、先行きを不安視するコメントが見受けられました。

2. 2021年において自社の売上高の伸び率は2020年に比べてどのくらいになると見通していますか。

(有効回答数461件 単数回答)

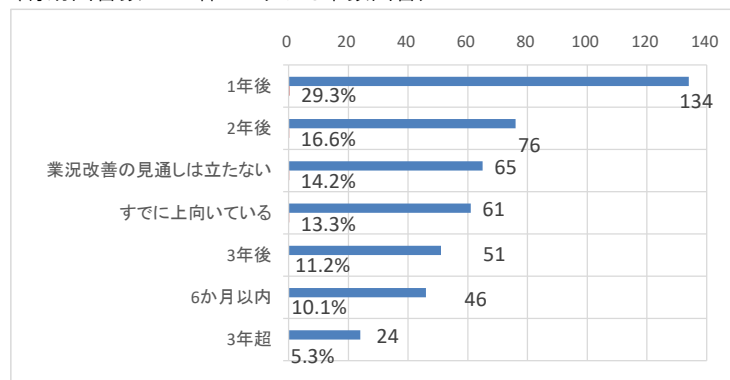


選択件数が最も多い回答は、「変わらない」で179件(38.8%)となりました。「10%未満～30%以上の減少」の回答件数は188件(約40.8%)となり、「10%未満～30%以上の増加」の回答件数は94件(約20.3%)となりました。

昨年と同じ質問項目では、「10%未満～30%以上の減少」が114件(24.9%)だったので、昨年より減少予測が強まる結果となりました。

3. 自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。

(有効回答数:457件 いずれも単数回答)

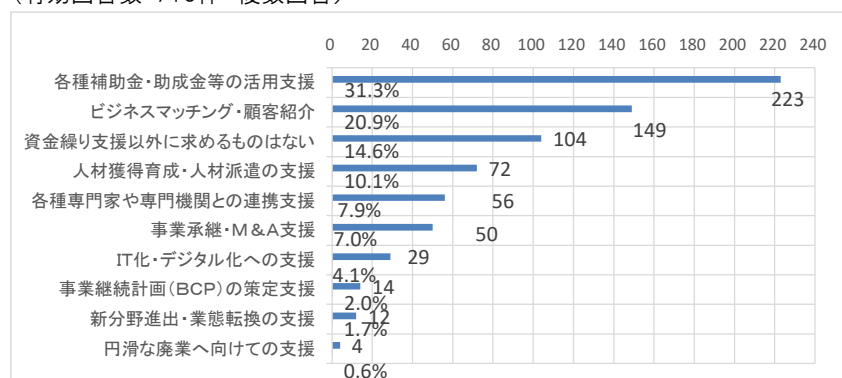


選択件数が最も多い回答は、「1年後」で134件(29.3%)となりました。

一方で、「業況改善の見通しは立たない」という回答も65件(14.2%)にのぼり、「新型コロナの影響は深刻」「新型コロナによる売上減少に経費削減が追いつかない」「新型コロナ収束まで業況は厳しい」等のコメントがありました。

4. コロナ禍において、資金繰り以外の事業計画・戦略等の策定・実行支援として地域金融機関に求めることはありますか。

(有効回答数:713件 複数回答)



選択件数が最も多い回答は、「各種補助金・助成金等の活用支援」で223件(31.3%)、次に多い回答は、「ビジネスマッチング・顧客紹介」で149件(20.9%)となりました。

一方で、「資金繰り以外に求めるものはない」という回答も104件(14.6%)を占める結果となりました。

他の機関における景況調査結果

『法人企業景況予測調査（令和2年10月～12月期調査）』（内閣府、財務省：令和2年12月10日発表）

< 大企業・中堅企業で「上昇」超、中小企業で「下降」超 >

令和2年10～12月期の自社の景況感を示す景況判断指数（「上昇」の回答割合から「下降」の回答割合を引いた値）は大企業全産業で11.6で、前回調査結果の2.0に比べて9.6ポイント改善した。中堅企業は5.5で、前回調査結果の▲8.1に比べて13.6ポイント改善し、中小企業は▲15.5で、前回調査結果の▲25.8からは10.3ポイント改善した。

大企業は令和2年7～9月期以降2期連続の「上昇」超となった。中堅企業は「上昇」超に転じ、中小企業は「下降」超幅が縮小した。大企業と中小企業の乖離は、前回調査の27.8ポイントから27.1ポイントに縮小する一方、中堅企業と中小企業の乖離は、前回調査の17.7ポイントから21ポイントに拡大した。

令和3年1～3月の景況判断指数は、全規模で悪化を予測している。大企業は3.1（今期比－8.5ポイント）、中堅企業は▲4.2（今期比－9.7ポイント）、中小企業は▲16.1（今期比－0.6ポイント）。

※調査時点を令和2年11月15日、調査対象企業の範囲を資本金、出資金又は基金1千万円以上の法人（電気・ガス・水道業及び金融業、保険業は資本金1億円以上）として実施。大企業：資本金10億円以上、中堅企業：資本金1億円以上10億円未満、中小企業：資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。

回答法人数：大企業4,006社、中堅企業2,920社、中小企業4,295社の合計11,211社。

『圏央道の宝物』セミナー＆グランプリを開催しました！

千葉信用金庫を含む圏央道沿線の5つの信用金庫による連携協定「しんきん圏央道アライアンス」は、「1都4県のしんきんがつなぐ『圏央道の宝物』セミナー＆グランプリ」を開催しました。この取組みは、日本財団「わがまち基金」を活用した地域創生支援スキーム「信用金庫の広域連携による圏央道沿線地域の『地域資源』『地域産品』の発掘・発信プロジェクト」の一環として実施し、“地方の原石”を“全国・世界レベルのヒット商品”に育てる「にっぽんの宝物プロジェクト」と共催しました。

セミナーでは、令和2年10月から3回にわたり、圏央道沿線地域の生産者・製造事業者等（各金庫約20者、5金庫全体で約100者）が集い、業界を超えた対話型セミナーを通じて、自社商品のブラッシュアップや、参加者同士のコラボレーションによる新商品開発に取り組みました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、講師が登壇するリアル会場と、他4つの会場をオンラインでつなげて同時中継する、コロナ時代における新しい試みとなりました。

さらに、セミナーの成果を披露する場として、セミナー参加事業者の代表として、一次予選を通過した16チーム（約35事業者）によるプレゼンテーション型グランプリを開催し、「圏央道の宝物」として表彰しました。



ちばしんきん経営者会のご案内

**もっと経営力を高めたい！
他の経営者と交流を深めたい！**

ちばしんきん経営者会は、地元の中小企業経営者あるいはその後継者を会員として、会員相互の情報交換と経営問題について、その時々ニーズに合ったセミナーや講演会等を開催しています。

各種行事を通じて「新しい時代の経営環境に適応できる会員の経営力の向上と、その企業の健全な発展を図る」という基本理念のもと、会員の皆様も積極的に参加していただいています。

会員同士の交流も活発に行われ、そのネットワークも大きく広がっています。令和2年11月末現在、246名の会員様が入会されています。

■ 経営者の皆様のご入会をお待ちしています！

ちばしんきんコラボ産学官のご案内

**開発・改良に向けてのアドバイスを受けたい！
マーケティングや販売方法について相談したい！**

ちばしんきんコラボ産学官（事務局：千葉信用金庫）では、技術や研究等に関する相談を受付けています。また、大学等研究機関や支援機関のご協力により、県内の各地でセミナーや相談会等を開催しています。

ちばしんきんコラボ産学官は、産学官連携による研究開発を促進し、新商品・新産業の創出により地域経済の活性化を図ることを目的として平成19年3月に設立しました。「技術的な課題を解決したい」、「開発改良に向けてのアドバイスを受けたい」などのご相談に大学等研究機関に直接持ち込み、ニーズとシーズ（技術やノウハウ）のマッチングを図ります。令和2年11月末現在、144社の会員様が入会されています。

■ 詳しくはお取引のある千葉信用金庫の職員にお問い合わせください！

■ 千葉信用金庫、中小企業の景気動向調査へのみなさまのご意見、ご要望をお寄せください。



千葉信用金庫 地域推進部

TEL 043-221-3683 担当:宮下 樋廻